

## 第2章 大気環境

### 第1節 環境の状況

#### 1 監視測定体制【大気環境課】

##### (1) 大気汚染常時監視測定局

人の健康を保護し生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として、環境基準が定められています。県は、県内各地域の大気汚染に関する環境基準の達成状況等を把握するため、大気汚染防止法に基づき、汚染状況を24時間監視、測定しています(名古屋市、豊橋市、岡崎市及び豊田市内は各々の市が実施)。

大気の汚染状況を把握する測定局には、自動車排出ガスによる大気環境の汚染状況を監視する自動車排出ガス測定局(以下本節において「自排局」という。)と、それ以外の大気環境の汚染状況を監視する一般環境大気測定局(以下本節において「一般局」という。)があります。これらの測定局の県内の配置状況(名古屋市、豊橋市、岡崎市及び豊田市が管理する測定局を含む。)は図2-1-1のとおりです。

##### (2) 有害大気汚染物質モニタリング

ベンゼンなどの有害大気汚染物質による健康に係る被害を未然に防止するため、平成8年5月に大気汚染防止法が改正され、有害大気汚染物質による大気汚染の状況の監視調査(モニタリング)に関する規定が定められました。平成22年度、県は、このモニタリングを19地点で実施しました(名古屋市、豊橋市、岡崎市及び豊田市が実施している調査地点を含む)。

対象とされている物質のうち、環境基準が定められている二酸化硫黄等6物質についての現況は次の(1)～(6)のとおりです。また、ベンゼンなど有害大気汚染物質モニタリングを行っている物質についての現況は(7)のとおりです。

##### (1) 二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)

二酸化硫黄は無色の刺激性の気体で水に溶けやすく、高濃度のときは目の粘膜に刺激を与えると同時に呼吸機能に影響を及ぼすとされています。

県は、大気汚染防止法に基づくK値規制に加え、昭和49年4月から愛知県公害防止条例(当時)に基づくK値規制や総排出量規制を開始し、また、昭和51年4月から大気汚染防止法に基づく総量規制を開始するなどの施策を進めてきました。

その結果、二酸化硫黄による大気汚染は改善が進み、三宅島噴火のあった平成12年度を除き、昭和55年度以降すべての測定局で環境基準を達成しています。

なお、年平均値の経年変化は図2-1-2のとおりであり、達成率の経年変化は図2-1-3のとおりです((2)～(5)についても同じ)。

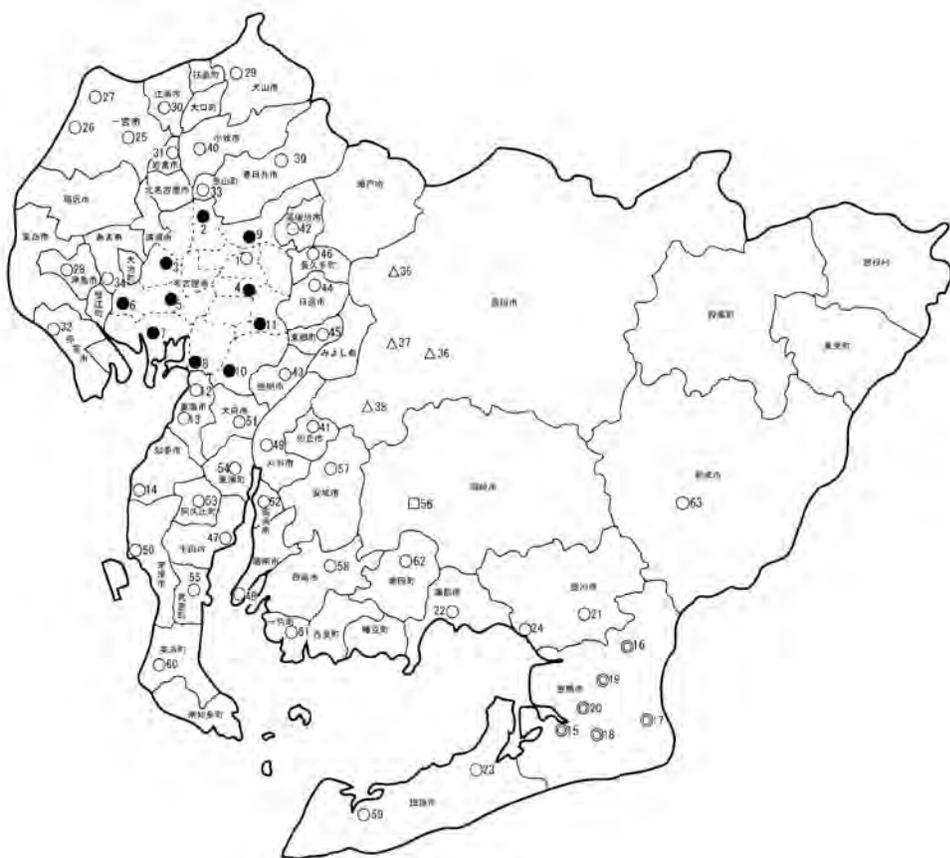
#### 2 大気汚染の状況【大気環境課】常時監視の

##### 【用語】

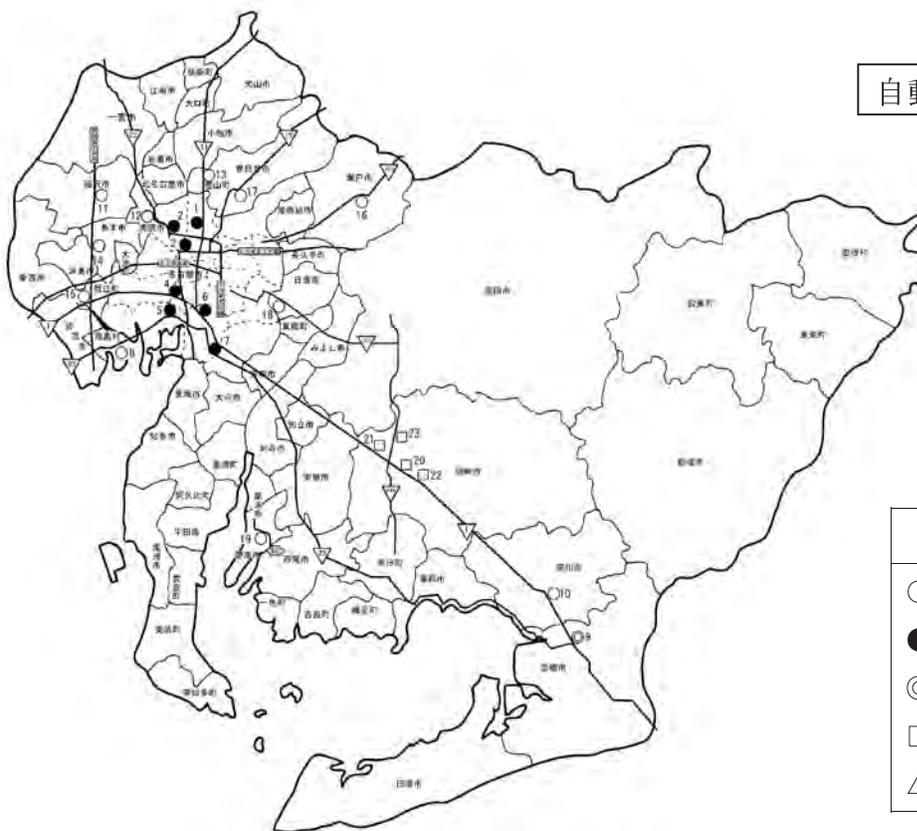
**有害大気汚染物質**：継続的に摂取された場合に人の健康を損なうおそれのある物質で大気汚染の原因になるものをいい、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等の23物質が特に優先的に対策に取り組む物質(優先取組物質)とされている。

**K値規制**：県内を6区域に分け、区域ごとに排出口の高さに応じて定める許容限度として定める定数(K値)により、ばい煙発生施設から排出される硫黄酸化物の量を規制するもの。

図 2-1-1 大気汚染測定局の配置状況（平成 22 年度）



一般環境大気測定局



自動車排出ガス測定局

凡 例	
○	県管理測定局
●	名古屋市管理測定局
◎	豊橋市管理測定局
□	岡崎市管理測定局
△	豊田市管理測定局

(注) 図中の数字は、資料編「大気環境」表 4 の測定局番号である。

(資料) 環境部調べ

## (2) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

二酸化窒素は赤褐色の刺激臭の気体で、高濃度的时候は目、鼻等を刺激するとともに呼吸器に影響を及ぼすとされています。

県は、大気汚染防止法や県民の生活環境の保全等に関する条例に基づく工場・事業場に対する排出規制等に加え、平成18年4月に策定した「愛知県窒素酸化物及び粒子状物質総合対策推進要綱」に基づき、主な排出源である自動車への対策を進めてきました。

また、自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NO<sub>x</sub>・PM法)に基づく施策や「あいち新世紀自動車環境戦略」などによる総合的な自動車交通環境対策を推進しています。

平成22年度においては、一般局では、平成21年度と同様すべての測定局で環境基準を達成し、自排局においても測定局の96%で達成しています。

なお、近年、年平均値は緩やかな減少傾向にあります。

## (3) 一酸化炭素 (CO)

一酸化炭素は無味、無臭、無色、無刺激の気体で、呼吸器から体内に入り血液中のヘモグロビンの酸素運搬機能を阻害するため、高濃度的时候は頭痛、めまい、意識障害を起こすとされています。

昭和41年からの自動車排出ガス規制の実施により改善が進み、本県では、昭和48年度以降すべての測定局において環境基準を達成しています。

## (4) 浮遊粒子状物質 (SPM)

浮遊粒子状物質は大気中に浮遊する粒子状物質のうち直径が10 $\mu$ m(=1/100mm)以下のものを言います。沈降速度が遅いため大気中に比較的長時間滞留し、高濃度的时候は呼吸器等に悪影響を与えるとされています。

これまで、浮遊粒子状物質の原因となる粉じん、ばいじん、ディーゼルエンジンから排出さ

れる黒煙等に対する規制は順次強化されてきており、平成18年4月からは浮遊粒子状物質の生成の原因物質の一つである揮発性有機化合物(VOC)に対する規制が開始されました。

平成22年度においては、一般局、自排局とも平成21年度と同様にすべての測定局で環境基準を達成しました。

なお、近年、年平均値は緩やかな減少傾向にあります。

## (5) 光化学オキシダント (O<sub>x</sub>)

光化学オキシダントは大気中のオゾン、パーオキシアセチルナイトレート等の酸化力が強い物質の総称であり、光化学スモッグの原因となっています。高濃度的时候は眼を刺激し、呼吸器、その他の臓器に悪影響を及ぼすとされています。

県は、光化学オキシダントの原因物質である窒素酸化物や揮発性有機化合物(VOC)の排出規制及び炭化水素系物質発生施設の規制を行っています。

平成22年度においては、平成21年度と同様すべての測定局で環境基準を達成していません。

光化学スモッグ予報等の発令日数は12日で、うち1日は注意報を発令しました(警報及び重大警報は発令なし)。また、7月22日に豊橋市で12人の光化学スモッグによると思われる健康被害の届出がありました。

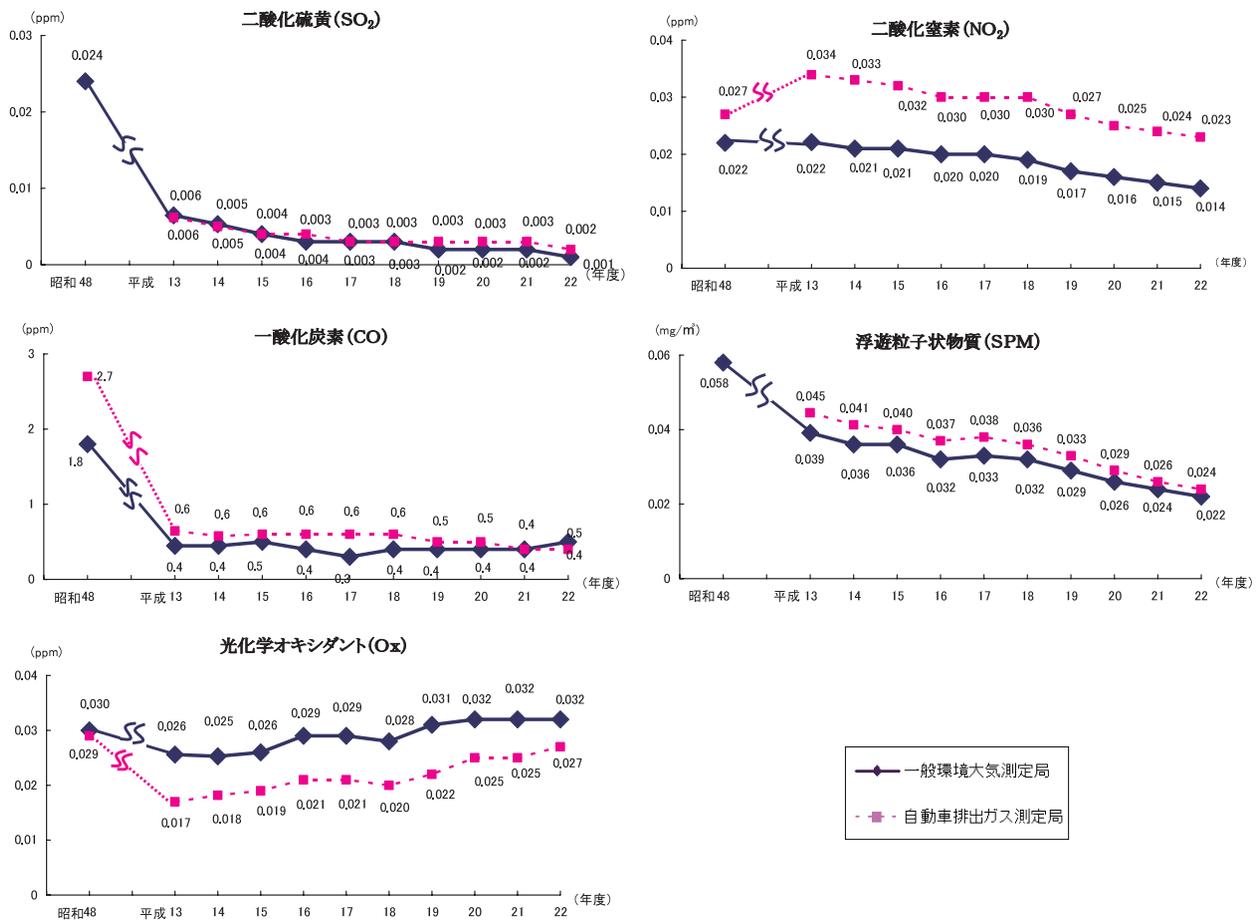
なお、昼間(5時から20時まで)年平均値はわずかながら増加の傾向が見られます。

## (6) 微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>)

微小粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径が2.5 $\mu$ m以下の粒子をいいます。粒径が小さいため吸い込むと肺の奥深くまで達し、健康への影響が懸念されています。高濃度的时候は循環器等へ影響を及ぼすとされています。

平成21年9月に微小粒子状物質の環境基準が設定され、平成23年4月からその常時監視が名古屋市、安城市及び東海市において始まっています。

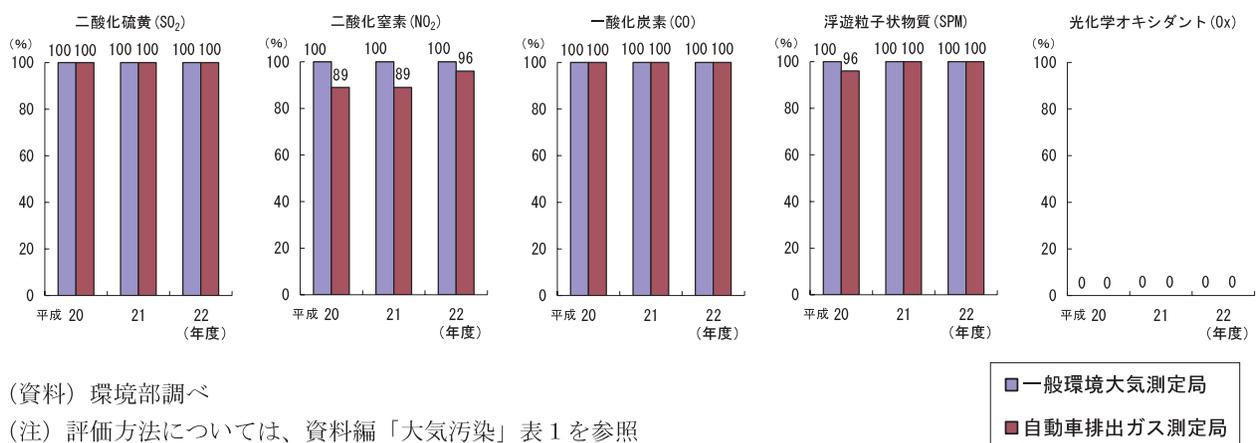
図 2-1-2 環境基準が定められている常時監視物質の年平均値の経年変化



(資料) 環境部調べ

(注) 環境基準については、資料編「大気汚染」表1を参照

図 2-1-3 大気汚染に係る環境基準達成率の経年変化



(資料) 環境部調べ

(注) 評価方法については、資料編「大気汚染」表1を参照

(7) 有害大気汚染物質

有害大気汚染物質のうち、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロ

ロメタンの4物質については環境基準が、また、アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、水銀及びその化合物、ニッケル化合物、クロロホル

ム、1,2-ジクロロエタン、1,3-ブタジエン、ヒ素及びその化合物の8物質については「**環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針**」(以下本節において「指針」という。)が定められています(環境基準の詳細は資料編「大気環境」表1を参照)。

県は、ベンゼン等4物質及びアクリロニトリル等8物質についてモニタリング調査を実施しており、平成22年度はすべての地点で環境基準・指針値を達成しています。

なお、年平均値の経年変化は図2-1-4及び図2-1-5のとおりです。

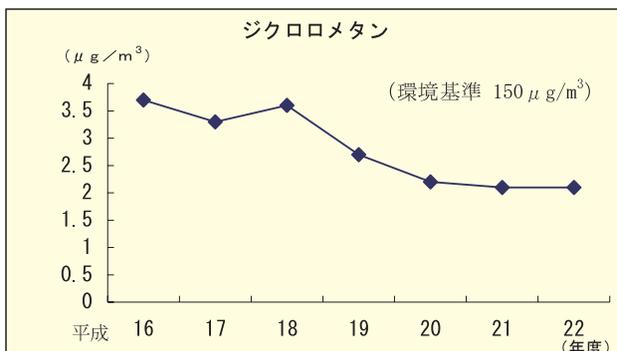
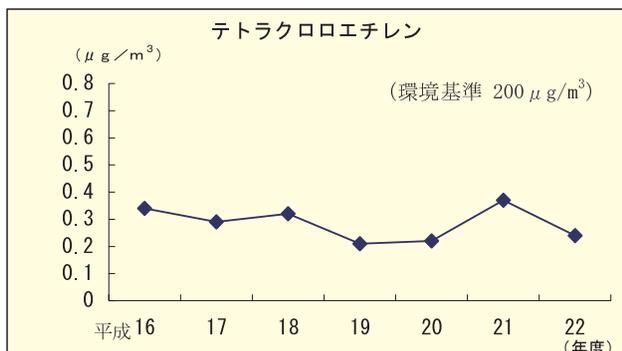
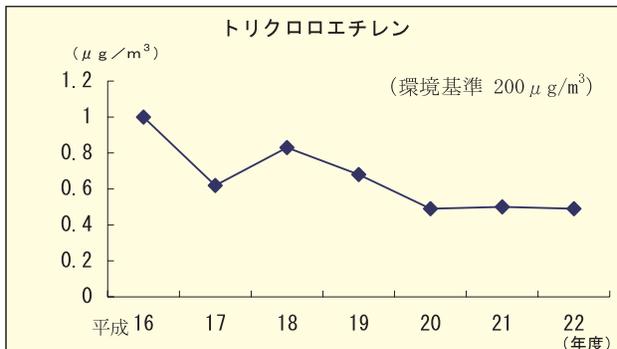
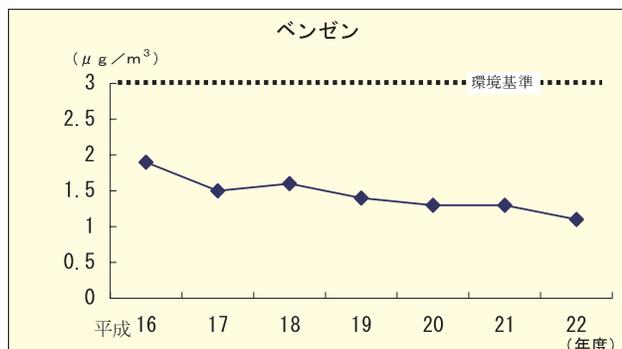


大気汚染常時監視測定局



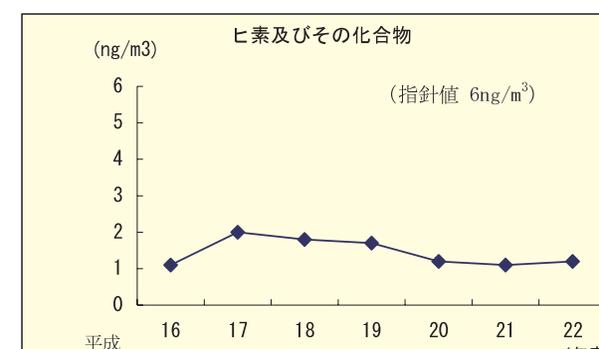
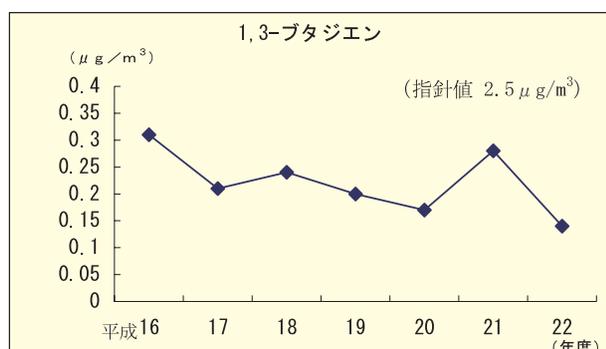
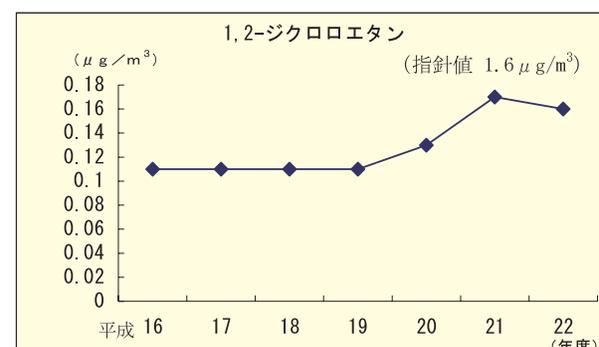
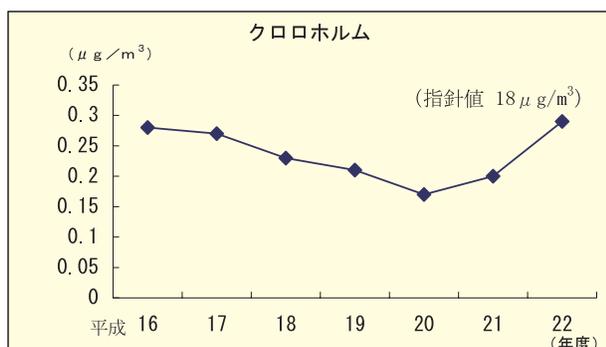
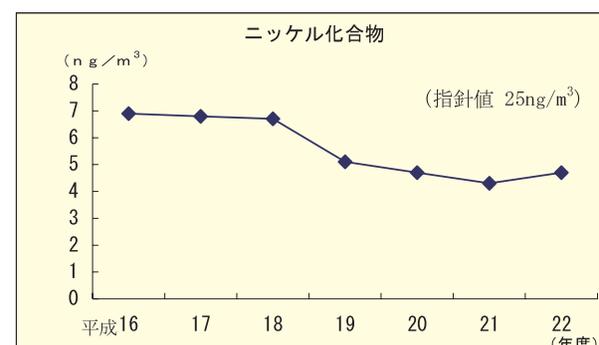
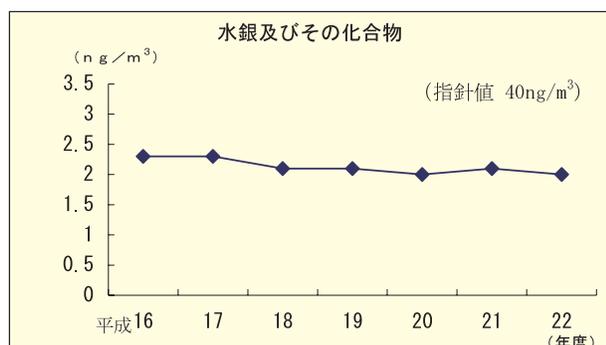
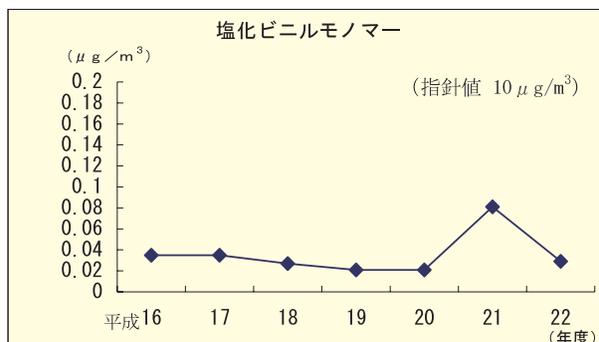
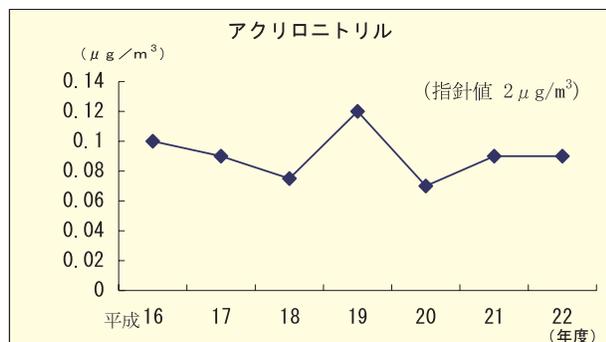
有害大気汚染物質の分析風景

図2-1-4 環境基準が定められている有害大気汚染物質の年平均値の経年変化



(資料) 環境部調べ

図 2-1-5 指針値が定められている有害大気汚染物質の年平均値の経年変化



(資料) 環境部調べ

## 第2節 大気環境保全に関する施策

### 1 工場・事業場対策【大気環境課】

大気汚染を防止するためには、工場・事業場、自動車等からの大気汚染物質の排出を抑制する必要があるため、県は、**大気汚染防止法、県民の生活環境の保全等に関する条例**（以下本節において「生活環境保全条例」という。）、**「愛知県窒素酸化物及び粒子状物質総合対策推進要綱」**等に基づき、窒素酸化物などのばい煙やベンゼンなどの有害大気汚染物質、粉じん等に対する規制対策を推進しています。

工場・事業場については、大気汚染防止法及び生活環境保全条例に基づき、ばい煙発生施設、粉じん発生施設、揮発性有機化合物排出施設及び炭化水素系物質発生施設（以下本節において「ばい煙発生施設等」という。）に対する規制・指導を実施しています。

また、県民及び事業者の大気汚染防止に関する理解と関心を一層深め、足下からの取組を促進するために、12月の大気汚染防止推進月間を始めとする様々な機会をとらえ、啓発活動を実施しています。

大気汚染防止法や生活環境保全条例等に基づくばい煙発生施設等に関する規制の概要は資料編「大気環境」表5、表6のとおりです。

なお、自動車等からの大気汚染物質の排出抑制については次章「交通環境」で記載しています。

### 2 ばい煙発生施設等の届出状況【大気環境課】

大気汚染防止法及び生活環境保全条例に定めるばい煙発生施設等の届出状況は表2-2-1のとおりです。

表 2-2-1 ばい煙発生施設等の届出状況

区分	工場等数						施設数						
	所管別					計	所管別					計	
	愛知県	名古屋市	豊橋市	岡崎市	豊田市		愛知県	名古屋市	豊橋市	岡崎市	豊田市		
大気汚染防止法	ばい煙発生施設	3,082	1,276	276	162	267	5,063	8,741	3,087	675	425	1,349	14,277
	一般粉じん発生施設	415	52	39	25	43	574	3,717	183	227	66	279	4,472
	特定粉じん(アスベスト)発生施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	揮発性有機化合物排出施設	64	8	3	5	8	88	210	38	63	23	65	399
生活環境保全条例	ばい煙発生施設	2,356	284	326	71	66	3,103	5,354	570	753	207	362	7,246
	粉じん発生施設	1,391	151	117	73	130	1,862	7,738	731	637	498	1,187	10,791
	炭化水素系物質発生施設	130	57	27	7	15	236	268	85	75	7	25	460

(注) 平成23年3月末現在

(資料) 環境部調べ

ばい煙等処理設備の設置状況については、硫黄酸化物対策として排煙脱硫装置が104基（以下本節では愛知県所管分について記述しています。）、窒素酸化物対策として排煙脱硝装置が149基、ばいじん対策として集じん装置が686基及び建屋集じん装置が15基、炭化水素系物質対策として吸着施設等が508基設置されていま

す。

平成21年度の1年間にばい煙発生施設から排出された硫黄酸化物（二酸化硫黄換算値）は11.7千トン、窒素酸化物（二酸化窒素換算値）は25.1千トンでした。

### 3 立入検査及び措置状況【大気環境課】

#### (1) 立入検査

ばい煙発生施設等を設置している工場・事業場等に対し、**大気汚染防止法及び生活環境保全条例**に定める排出基準の遵守徹底を図るため、平成22年度は延べ2,792工場について立入検査を実施し、施設の使用状況、処理設備の管理状況、ばい煙の排出状況等を確認し、必要に応じて改善指導等を行いました。

また、有害大気汚染物質を使用する6工場について立入検査を実施し、ばい煙発生施設等と同様の確認・指導等を実施しました。

#### (2) ばい煙測定

ばい煙発生施設等の排出基準の適合状況等を検査するため、延べ55工場・事業場で504検体のばい煙測定を行いました。

#### (3) 措置

平成22年度においては、立入検査やばい煙測定の結果、処理設備の改善等を要すると判断した延べ11工場・事業場に対し指導票等により指導を行いました。これらの工場・事業場については再度立入検査を行い、改善の状況等についての確認を行っています。

### 4 VOC（揮発性有機化合物）対策の推進

【大気環境課】

**大気汚染防止法**の改正により、平成18年4月から、環境基準の達成率が低い浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントについて、その原因物質の一つである揮発性有機化合物（VOC）の排出規制が始まりました。VOC対策については、「法規制」と「自主的取組」を組み合わせながら、平成22年度までに工場・事業場の固定発生源からのVOC排出量を平成12年度比で4割程度（法規制により2割、自主的取組により2割）削減することを目標としています。

県は、平成18年4月に「**工場・事業場における揮発性有機化合物排出抑制指針**」を策定し、VOC排出抑制の手引きなどの啓発資料の作成、講習会や説明会の開催などにより、事業者のVOC排出抑制の取組を支援しています。

### 5 アスベスト対策の推進【大気環境課】

アスベスト（石綿）は、**大気汚染防止法**により、人の健康に係る被害を生ずるおそれがある物質として特定粉じん指定され、特定粉じん発生施設及び特定粉じん排出等作業の規制が行われています。

県内の特定粉じん発生施設は平成18年度末までにすべてが廃止されています。

特定粉じん排出等作業には、吹付け石綿、石綿を含有する断熱材、保温材及び耐火被覆材が使用されている建築物その他の工作物の解体、改造及び補修作業が該当します。それら作業の実施に当たっては、実施の届出とともに作業基準に従い行うことが義務づけられています。平成22年度は県に251件の届出があり、立入検査等により特定粉じんの飛散防止について事業者指導を行っています。

平成16年10月からはすべてのアスベストの製造、輸入、使用などが禁止されていることから、今後のアスベスト対策はこれまでにアスベストが使用されてきた建築物の解体等作業が中心となります。県は、国、県の関係機関、民間の関係団体等で構成する**愛知県アスベスト対策協議会**を平成17年9月に設置し、県民、事業者への情報提供、被害の拡大防止、相談窓口の整備などの取組を進めています。